

# 家庭ごみを減らし 資源循環型の 地域社会を創ろう

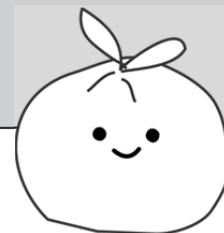


ごみ減量と資源化へ、日本共産党静岡市議団の見解と提案

**Q&A**

2013年9月 日本共産党静岡市議団発行

# はじめに



静岡市は昨年度、家庭ごみの有料化を検討する方向性を打ち出し、市内5カ所で「家庭ごみ有料化制度に関する意見交換会」を開きました。

意見交換会では、「有料化は反対」「有料化の前にやるべきことがある」など、有料化反対の意見が市民から多く出されました。

日本共産党市議団は、2013年2月議会で有料化の問題点を明らかにするとともに、3月市議選において有料化反対をかかげ、たたかいました。その結果、5議席へと議席増を勝ち取りました。

こうした経過を経て静岡市は、6月議会でのわが党議員の質問に対して「当面有料化は考えていない」と答弁しました。そのうえで新たに「ごみ減量具体化説明会」を市内で開いてきています。この中で、新たなごみ減量目標（毎年約20g1人1日ずつ減量してH31年度にごみ総排出量880g1人1日に）と、有料化をふくまない行動が提案されました。

市民の声と党市議団が力を合わせたことが市の姿勢を変えさせ、有料化を当面「棚上げ」に追い込んだと言えます。

このようなことから、ごみ減量と分別・資源化を徹底して進めるために、日本共産党静岡市議団の見解と提案をQ&Aでまとめました。

**新たなごみ減量化目標（案）について**

目標：一人1日あたりのごみ総排出量（家庭ごみ+集団回収+事業ごみ）

1. 000 g/人日 → **880 g/人日**（平成31年度）  
現計画のH31年度目標値                      **新目標**

このごみ総排出量の数値目標を達成するために…

個別目標①：家庭ごみ総排出量（家庭ごみ+集団回収）の減量化  
一人1日あたりの家庭ごみ総排出量

804 g/人日 → **604 g/人日**  
（平成20年度）                      （平成31年度）  
※現計画上の目標値…H31年度：700 g/人日

個別目標②：事業系ごみの減量化  
事業系ごみ **約25%減**（平成20年度 ⇒ 平成31年度）  
※現計画上の目標値…H20年度比H31年度：20%減

2013年9月

日本共産党静岡市議団

☆パンフ中の資料出典は、ことわりがない限り環境省「一般廃棄物処理実態調査結果」から

静岡市「ごみ減量具体化説明会資料」より

## Q1 ごみ減量と資源化の取組みはなぜ必要ですか？



**A1** 将来にわたり持続可能な社会をつくる

ため、ごみを減らし資源を生かすリサイクル

の仕組みをつくるためです。

どのようにごみを減らすかは、生活スタイルや経済社会のあり方と深くかかわり、地球環境の保全や資源循環型社会に切り替えていくために、不可欠のテーマです。

ごみ問題の解決なくして、地球環境問題の解決はできません。地球環境問題は今世紀の最大の問題のひとつです。

資源やエネルギーを大量に消費する大量生産、大量消費社会をきりかえて、地球環境を守り、将来にわたって持続可能な社会をつくるのが大切です。



そのためには、限られた資源やエネルギーの浪費をおさえ、ごみを減らし、資源を生かしたりリサイクルの仕組みを作っていくことが重要です。

全国の自治体でも、ごみ減量、分別・資源化にとりくんでいます。静岡市でも行政と市民が一体となったとりくみが必要となっています。

## Q2 静岡市の家庭ごみの現状と問題点は？



### A2 資源として再利用できる家庭ごみが 多く燃やされ、ごみ量も多い。

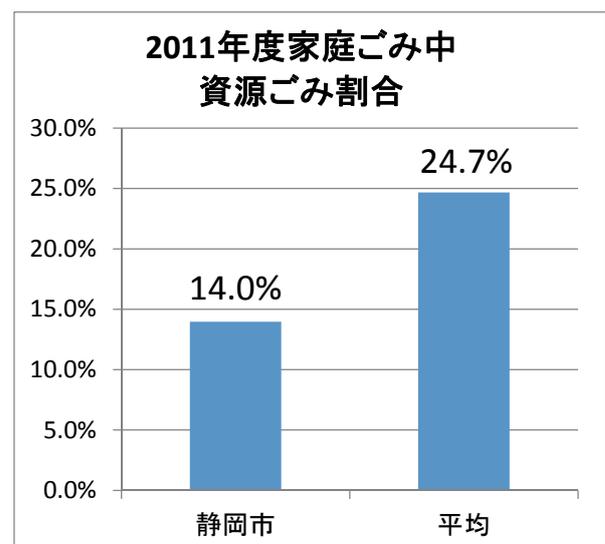
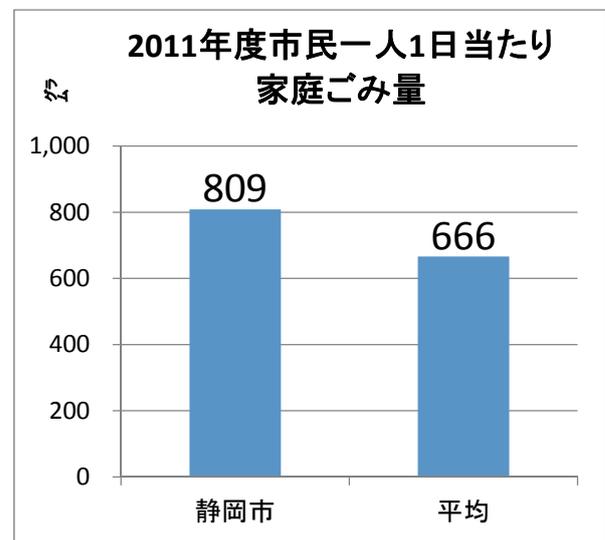
2011年度の静岡市における市民一人一日あたりの家庭ごみ量は809グラムです。政令市平均の666グラムより、143グラムも多くなっています。

静岡市では14%が資源ごみ(リサイクルして資源となるもの)となっていますが、政令市平均では、24.7%が資源ごみとして再利用され、静岡市は10.7%低くなっています。

他市ができて静岡市ができないはずはありません。燃やすごみをもっと分別して減らし、資源ごみにする努力が必要です。しかし静岡市は大型溶融炉を建設し「ごみはなんでも燃やす」という方針です。

党市議団は、この市の立場を改めて、「分別と資源化で再利用を徹底する」という方針へ転換することを求めています。

そうしてこそごみを減らし、資源循環型の地域社会を創ることができます。



## 燃やすごみの中身は、資源が多い



静岡市「ごみ減量具体化説明会資料」より

静岡市の可燃ごみの内訳は、厨茶類（生ごみ）42%、紙類28%、プラスチック類21%と、この3種類で91%を占めます。

紙類の中には新聞、広告、チラシ、書籍、雑紙などが含まれ資源化できる紙類は全体の13%もあります。

またプラスチック類には、ペットボトル、トレイなどが含まれ、これらを分別・回収すれば資源化は十分可能です。

## 燃やすごみを減らせば最終処分場も長くもつ

静岡市には、英区の沼上最終処分場と清水区の貝島最終処分場があります。

この最終処分場の残余量は、あと12万 $\text{m}^3$ 、年2万 $\text{m}^3$ を埋めるとすると、あと6年（8年～10年という見方も）でいっぱいとなります。

現在市は、候補地調査で7か所リストアップしましたが、適地は選定できていません。

そのため市は、最終処分量を減らして延命化すると言っていますが、そのためには「ごみは何でも燃やす」立場から「分別し資源として再利用する」立場に転換することが必要です。



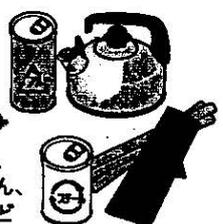
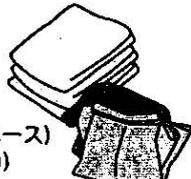
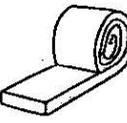
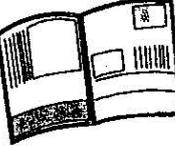
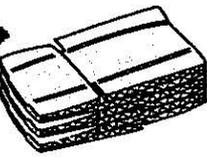
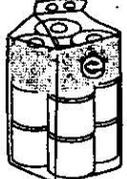
現在の葵区沼上最終処分場

# Q3 静岡市のごみ行政の問題点は？



## A3 静岡市は本気になってごみを減量しようという姿勢が見られません。

**資源のゆくえ**

<p><b>びん類</b> → ガラスびん、 路床、路盤、 土壌改良骨材など</p> 	<p><b>かん類</b> → アルミかん、 スチールかん、 建築資材など</p> 
<p><b>金物類</b> → 建築資材など</p> 	<p><b>布類</b> → 海外に輸出され 服として利用(リユース) ウエス(工業用雑巾)</p> 
<p><b>蛍光管</b> → グラスウール、 アルミ製品、 工業用水銀など</p> 	<p><b>使用済み食用油</b> → バイオディーゼル燃料、 新聞のインク、家畜の飼料、 工業用油脂など</p> 
<p><b>新聞</b> → 新聞、 雑誌など</p> 	<p><b>雑誌・雑がみ</b> → 雑誌、ボール紙など</p> 
<p><b>段ボール</b> → 段ボールなど</p> 	<p><b>紙パック</b> → トイレトペーパー、 ティッシュペーパー など</p> 
<p><b>紙製容器包装(紙)</b> → 段ボールの中芯、段ボール、 板紙、固形燃料など</p> 	

市はごみを減らそうとっていますが、本気になって減量しようという姿勢が見られません。

西ヶ谷清掃工場は現在1日200トンのごみを燃やしています。2010年度には194億円もかけて500トン(250トンを2基)もの焼却能力を持つ大型の西ヶ谷清掃工場を建てました。ごみ減量化に逆行とも言えます。

国はごみ処理について、大型化、広域化を推進していますが、これに追随した姿勢と言われても仕方ありません。これからは、ごみを出さないための社会の仕組みを作ることが必要です。資源循環型社会に移行するため、製品に対する生産者責任を廃棄物処理の段階にまで拡大する「拡大生産者責任」制度を国に求めるなど市の姿勢を転換することを求めます。

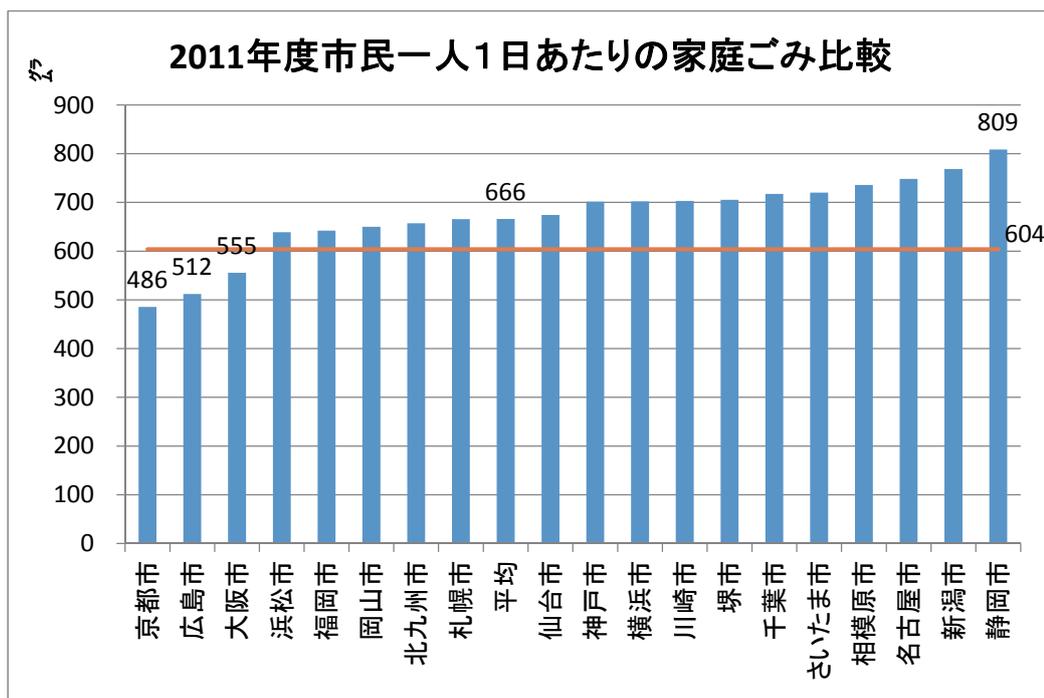
## Q4 家庭ごみの減量と資源化の取り組みに必要なことは？



### A4 「ごみはなんでも燃やす」の立場を改

め、①分別で可燃ごみを減らし、資源化すすめる。②ごみ排出減量の2つの目標と方針を持ち、市民と協力・共同することが必要です。

静岡市は2019年度までに家庭ごみを市民一人1日あたり604グラム(家庭ごみ+集団回収)まで減らす目標ですが、不十分です(京都市、広島市、大阪市はすでに604グラムを下回っています)。資源化については、目標すら持っていません。



共産党市議団は、2019年度までに可燃ごみのうち、分別を強め、生ごみ、紙類、プラスチック類を6年間で半減させ、一人1日550グラムまで減量させる目標を提案します。

## Q5 ごみ減量をすすめるために、他市はどんな実践をしているのでしょうか？



**A5** 富士市は、一人1日77グラムの可燃ごみ減量を目指しています。

①富士市では、環境にやさしいまちづくりをかかげ、一人1日77グラムの可燃ごみ減量を目指しています。具体的には、古紙・容器プラスチック・布類・生ごみの減量を市民に呼びかけています。特に努力していることは、

○可燃ごみの3割～4割を占める生ごみの減量対策として、ダンボールコンポストを業者と開発し、「手軽に、安く、おもしろく」をモットーに取り組んでいます。

○布類は、「燃えるごみとして出すのはもったいない。使える物はできるだけ再利用していただく」の考えで、市内34か所の施設内で回収しています。

77グラムの減量って？		
種類	品目	重さ
プラスチック	コンビニ弁当容器	30グラム
	スナック菓子の袋	8グラム
	プリン容器	14グラム
その他の紙	ティッシュの空箱	35グラム
	チョコレートの箱	10グラム
	ダイレクトメール(長3封筒入り)	40グラム
	A4コピー用紙1枚	4グラム
布類	靴下(左右1組)	70グラム
	Tシャツ	150グラム
生ごみ	バナナの皮(Sサイズ1本)	40グラム
	緑茶の殻(4杯分)	35グラム
	キャベツの一番外の葉	60グラム

出典 富士市「ごみ減量説明会」～環境にやさしいまちづくり～ より

# 掛川市も目標を設定して取組み、実績を持っています。

合併の結果、このままでは最終処分場がいっぱいになってしまうという議論から。

① 大量のごみを最小限にし、焼却ごみを減らす必要がある。

② 「ごみ」という考え方から「資源」という考え方に変え、分別・資源化を徹底していく。

などの議論を踏まえ、行政が先頭に立ち、市内地区ごとに分別の仕方の説明会をもち、地域住民の協力を促してきました。

- ・説明会回数は、2006年度から2011年度まで793回、延べ3万5700人余り。
- ・啓発用のぼり旗を作製し、集積所に立てる。
- ・集積場巡回指導（2011年度は、199地区、638カ所、2103人）

毎年のごみ減量の目標を設定し取組む。一人1日当たりの燃えるごみ量を2006年度の「588グラム」を基準とし、2012年度の実績は、549.5グラムになっています。

## 掛川市の取組みと実績

一人1日当たりの燃えるごみ量

年度	基準値	目標値	実績	増減率
H19年度	588g/人・日	550.0g/人・日	531.0g/人・日	△9.7%
H20年度		518.0g/人・日	517.7g/人・日	△12.0%
H21年度		518.0g/人・日	507.5g/人・日	△13.7%
H22年度		505.6g/人・日	505.3g/人・日	△14.1%
H23年度		505.6g/人・日	530.2g/人・日	△9.8%
H24年度		505.6g/人・日	549.5g/人・日	△6.5%

「掛川市の当局資料」より

## 集積所巡回指導の様子

【指導内容】・2回/週(平成20年度までは4回/週実施)

・午前7時から午前8時30分まで

・主にプラスチック製容器包装類及び古紙の燃えるごみへの混入防止



	地区数	集積所数	指導人数
H19	155地区	758箇所	6,393人
H20	153地区	405箇所	5,192人
H21	129地区	270箇所	6,391人
H22	147地区	232箇所	3,413人
H23	199地区	638箇所	2,103人

「掛川市の当局資料」より

分別対象は、剪定枝、新聞紙・雑紙の集団回収、食用油、乾電池・蛍光灯、金属回収、古布、古紙、白色トレイ、プラスチック、ペットボトル、ビン、缶。

また、シュレッダーにかけられた紙ごみも、古紙として資源回収しています。

# Q6 同じ静岡市なのに清水区は、家庭ごみ回収のしかたが違いますか？



**A6** 清水区の家ごみは、ペットボトルを集積所で回収するなど、分別で可燃ごみ減らす努力を続け、ごみ量が少なく、資源ごみが多い。

例えば、ペットボトルは、葵・駿河区は、スーパーや生涯学習センターに回収ボックスを

設置する拠点回収方式、清水区は月1回の集積所回収方式です。その結果、清水区だけで、葵・駿河区合計より多い回収実績があります。

ごみ量についても、清水区は葵・駿河区よりごみ量は2011年度で葵区・駿河区より市民一人1日あたり7グラム少なく、可燃ごみは22グラム少なく、資源ごみは14グラム多くなっています。

このようにごみ減量の努力と資源化の努力がごみ総量を少なくし、資源ごみを多くしています。

### ペットボトルの出し方(資源ごみ)

- お願い**
- 中を簡単に水洗いしてから出してください。
  - ペットボトル専用回収箱は、収集後、業者が回収しますので、集積所に置いたままにしてください。
  - ラベル及びキャップの残りの部は外さなくて結構です。
  - ペットボトル専用回収箱にはペットボトル以外は絶対に入れないでください。

毎月1回、「びん・缶・ペットボトル」の日に指定された場所へ出してください。

**回収するペットボトルの種類**

飲料用      酒類      しょう油 みりん等

**出し方**

- 1 蓋がキャップをはずす
- 2 中を簡単に水洗いする
- 3 蓋を潰す
- 4 収集日に専用の回収箱に出す

※) 見本のため、つばをはずして撮影しています。

### 2011年度市民一人1日あたりごみ量 (グラム)

	葵区・駿河区	清水区
可燃ごみ	552	530
不燃・粗大ごみ	23	24
資源ごみ	108	122
家庭ごみの計	683	676

「清水区ごみシンポでの当局報告」より

### ◎ ペットボトル回収実績 (単位: t)

年度	葵・駿河区	清水区	合計
15	372	338	710
16	385	347	732
17	379	341	720
18	372	387	759
19	371	382	753
20	341	371	712
21	300	359	659
22	267	315	582
23	246	287	533
24	217	278	495

## Q7 市は、家庭ごみ有料化を当面考えないといっ ていますが？



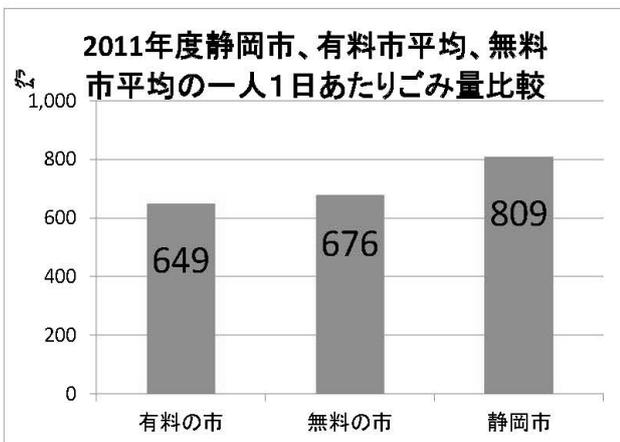
**A7** 有料化は、家庭ごみ減量にも資源化にも必要ありません。有料化をきっぱり撤回すべきです。

静岡市は、市民からの「ごみ有料化反対」、「ごみ減量に力を入れるべきだ」との声におされ、「当面有料化は考えていない」と議会答弁し、姿勢を変えました。しかし、「有料化を撤回する」とは言いません。



市議団は、家庭ごみ減量と資源化に有料化は必要ないと考えています。

左表は 2007 年度から 2011 年度の静岡市の家庭ごみ（家庭ごみ+集団回収）の推移です。平均で毎年 18 グラム減っているのに、毎年 20 グラムの減量は目標として成り立ちません。



左下のグラフは、2011 年度政令市のごみ無料市と有料市平均のごみ量と静岡市の比較

です。静岡市は無料市と有料市よりごみ量は多くなっています。

また、ごみ処理費用を受益者負担で市民に押し付けるのは間違いです。

## Q8 家庭ごみ減量と資源化、資源循環型地域社会を創るための日本共産党市議団の政策は？

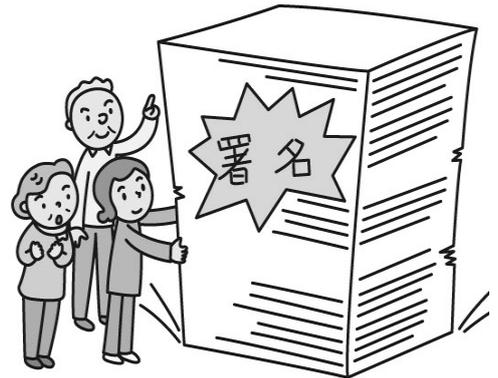


### A8 家庭ごみ減量と資源化の目標と方針

をもち（特に燃やすごみを減らす）、実現のため

市民と協力・共同で進めます。

- 1、「ごみはなんでも燃やす」方針から減量と資源化を徹底する方針に転換し、市民と力を合わせることを積極的に進めます。
- 2、2019 年度までに分別を強め、可燃ごみ中の紙類、厨芥類（生ごみ）、プラスチック類をそれぞれ半減させます。
- 3、資源ごみは、分別の徹底を市民の協力で進める。雑誌、新聞紙、段ボール、トレイ、ペットボトル、古布の行政回収、生ゴミ・勢定枝などの資源化を進めるとともに排出を抑える。
- 4、ごみ減量と資源化のために、市民の協力は不可欠です。そのために市は先頭に立ち、市民との対話を強め、協力と共同を推進する。
- 5、社会全体でごみ減量するために、リサイクル法の改善・見直しを国に求める。拡大生産者責任制度を実効あるものにして、徹底する。



市民のみなさん。

ごみ減量をご一緒に進め、有料化を撤回させましょう。